

<川崎市：通勤用高速バスの導入実証実験>

| 施策名 | 通勤用高速バスの導入実証実験 |
|---|--|
| 取り組みの背景 地域の交通環境問題 行政・市民ニーズ 交通基盤シーズ など | 背景 1：川崎市臨海部の大気環境の深刻化 背景 2：朝夕の通勤時間帯に国道 132 号が渋滞 背景 3：交通需要管理の推進による道路沿道環境の改善の必要性 |
| 目的・ねらい 目的・ねらい 対象交通 など | 目的・ねらい：公共交通機関の利便性の向上，マイカー通勤の転換による道路沿道環境の改善 対象交通：臨海部地域へのマイカー通勤車両 |
| 取り組みの経緯 経緯・熟度 など | H11 年 12 月 浮島・小島地区事業所・従業員 アンケート調査 従業員の 40% が横浜市内在住 協力意向が約 40% (マイカー通勤者約 25%) H12 年 1 月 東扇島・千鳥地区事業所・従業員 アンケート調査 従業員の 40% が横浜市内在住 東扇島地区で 30% 以上がマイカー通勤 協力意向が 40% 強 (マイカー通勤者約 30%) H12 年 2 月 15 日～17 日 試乗会 (浮島・小島地区～YCAT) 所要時間短縮効果を検証 日ごとに参加者が増加 参加者の 70% 以上が実現時に利用意向ありと回答 事業化に向けた調整 臨港バス・京急バスが東扇島で事業化検討 課題としてバスベイの必要性等 川崎市・県警・国土交通省・事業者の連携した取り組み |
| 主体・広報・費用 実施主体 検討組織 広報スケジュール 費用負担 など | 実施主体：東扇島・千鳥地区交通環境改善連絡協議会，浮島・小島地区交通環境改善連絡協議会 検討組織：川崎臨海部事業所，横浜国道工事事務所，関東運輸局，神奈川県警，神奈川県他行政機関 広報：告知チラシ (A4 版 10,000 枚，ポスター 1,000 枚，ステッカー，ラッピング・バス，マスコミ各社) 費用負担：調査費用：バス事業者，国土交通省，川崎市 事務局：川崎市 |

| | |
|----------------------------|---|
| 実施概要 | 対象地域：川崎市臨海部 |
| 対象地域 実施日時 施策内容 など | 実施日時：平成11年度～14年度 施策内容： 高速バス試乗会の開催（浮島・小島地区） H12年2月15～17日 高速通勤バスの運行開始（東扇島地区） H14年10月1日 |
| 効果測定内容 | 効果測定内容：送迎バスの利用・運行実態の把握，通勤交通実態・意向の |
| 測定内容 効果把握 など | 把握，対応策の方向性の検討，対応策の有効性分析， 効果把握結果： 試乗会（横浜駅東口 浮島・小島地区） 出勤時6便 帰宅時5便 無料 運行主体：京急バス，臨港バス 参加人数：800人（28人/便） 所要時間：30～50分 アンケート結果：70%が実現化・利用意向ありと回答 本格運行（H14年10月） 運行主体：京急バス，川崎鶴見臨港バス |
| 取組上の課題 | 課題1：利用者からの増便の要請への対応 |
| 合意形成 費用負担 など | 課題2：通勤時間帯以外の運行の可能性検討 課題3：他の地域への路線拡大の可能性検討 |
| その他特記事項 | 通勤用高速バスの利用実態・利用者ニーズ把握調査を実施中 |
| 今後の方向性 地域指定等 | 調査項目，運行実態，利用実態，改善要望把握，需要性確認，PR・展開 （調査主体：関東運輸局） |

以上

都道府県市名：神奈川県川崎市
担当部局名：環境局公害部自動車対策課